

# 成果が見えた! 課題が見つけた! 第2回コミュニティサポート推進委員会

# 教育 いちかわ

市川市教育委員会広報紙

平成17年10月28日(金)勤労福祉センターにおいて、第2回コミュニティサポート推進委員会が開催されました。コミュニティサポート委員会が、市内55の小中学校区に発足してから3年目を迎え、各学校区で、子どもたちを中心においた話し合いが、年々活発に行われています。

今回の推進委員会では、各学校区の代表者の方々(学校関係者、委員長または関係役員等、各学校区2名程度)が参加し、中学校ブロックに分かれて、各委員会の運営状況や成果と課題などを中心に協議しました。

どのブロックでも熱心な意見交換や情報交換が行われ、現状だけでなく今後の方向性についても話し合われました。

## (1) コミュニティサポート委員会の運営状況について

年間平均3~4回の会議が開催され、

- ・各団体の行事の日程調整及び情報共有、情報交換
- ・防犯や交通安全(パトロールの協力依頼、安全マップの作成等)
- ・学校や地域での子どもたちの様子
- ・防災(地域避難計画)に関すること

などが話し合われています。

そのほかには、学校教育活動(フェスティバルや職場体験学習など)への協力依頼、子供たちの地域行事への参加など、学校・地域の双方向の連携へと発展してきているものもあります。



地域商店街の和菓子屋さんで職場体験(第三中学校)

## (2) 成果と課題

成果と課題については各学校区の委員会によって違いがありますが、どの委員会も、より効果的な運営を目指して話し合いを進めています。

### 【成果】

- ・地域の人たちとの交流が深まった。
- ・地域で「子どもたちを育てる」という雰囲気が作れた。
- ・学校と地域の協力体制が大変良くなった。
- ・地域の行事や学校行事を把握し合い、調整が可能となったことで行事協力ができるようになった。

これらのことから、コミュニティサポート委員会が地域の方々の交

流の場としても、大切な役割を果たしていると考えられます。

### 【課題】

- ・保護者や地域に「コミュニティサポート」を浸透させていくこと。
- ・類似した会議とのメンバーの重複をどのようにするか。
- ・中学校区コミュニティサポート委員会のあり方を見直すべき。
- ・「地域で子どもを育てる」意識をどう育てるか。

## (3) 今後へ向けて

グループ協議の意見の中に、

- ・地域や学校で、子どもたちをどう育てたいのか。そのために何ができ、どうするのか理解が必要。
- ・学校や各団体が同じねらいを持ち、子どもたちを育てていこうとする共通理解が必要。

といった意見がありました。

子どもたちの健やかな成長は、子どもたちの教育や育成に関わる方々すべての共通の願いです。その実現のために、コミュニティサポート委員会が担う役割は大きくなっていきます。

各コミュニティサポート委員会では、学校や地域の実情に応じた話し合いが行われ、その話し合いが発展した形で子どもたちの活動に生か

発行 市川市教育委員会  
〒272-8501 市川市八幡1-1-1  
TEL334-1111

企画編集 市川市教育センター  
〒272-0015 市川市鬼高1-1-4  
TEL320-3335  
FAX320-3352



科学の遊びコーナーで

### 百合台まつりの様子

第三中学校、市川西高等学校の生徒も、ブロックのコミュニティサポート委員会に参加しました。まつりの当日も地域の一員として活躍しました。

## 生徒たちも参加してコミュニティ集会

12月1日(木)、南行徳中学校体育館において、コミュニティ集会が開催されました。

これは、生徒たちに「学校と地域の双方向の連携を推進し、地域を身近に感じることで地域の一員としての自覚を高め、地域の行事に積極的に参加しようとする意識を育てる」ことをねらいとして行われたものです。

当日は全校生徒や教員とコミュニティサポート委員の方々が一堂に会して、学区の自治会長・PTA会長の方々から「戦争体験の話」や「戦時中の中学校生活の話」、「海外での生活体験」、クイズ形式での市川市に関する話題などが話されまし



た。初めての試みでしたが、地域の方々の地元や生徒に対する思いが十分に伝わる集会となりました。「生徒とともにあるコミュニティサポート委員会」の今後の展開が楽しみです。

## 先生たちも参加し温もりのある話し合い

同委員会は今年度4回開催されますが、毎回校長先生、教頭先生、コミュニティサポート主任をはじめ多くの先生方が会議に参加しています。12月21日(水)の会議も、生徒指導主任、体育主任、各学年の代表の先生方が参加して行われました。

各学年の先生から、学校での子どもたちの様子、学習活動についての話があり、地域の方々か



らは、地域での活動や子どもたちの様子についての話がありました。

続いて、学校と地域が子どもたちのためという視点で、協力すべき点等について意見交換がされ、大変有意義な話し合いとなりました。先生方の話を聞いて地域の方々より拍手が沸き、地域の方々の話に先生方から自然にお礼の言葉が出る温もりにあふれた話し合いでした。

「先生方の一生懸命さが伝わってきます。学校・家庭・地域が三位一体となっているとひしひしと感じます。」という地域の方の言葉が印象的でした。



## 子どもたちに危険予知の力を 子どもの安全講習会

12月8日(木)、学校関係者と保護者代表を集めて「子どもの安全講習会」が開催され、地域安全マップのホームページ掲載方法、かけこみ110番についての連絡の後、千葉県教育庁葛南教育事務所社会教育主事の鈴木郁夫先生による「地域安全マップ作成のための危険予知トレーニングの実際」を行いました。

「安全能力の低下は危険予知や危険回避能力の低下による」「危険には見える危険と見えない危険がある」などのお話の後、



グループで危険予知トレーニング

道で遊んだり自転車に乗ったりしている場面の絵を見て、危険予知能力を高めるトレーニングを体験しました。集まった人は、危険の発見、危険のポイント、具体的な対策、達成可能な目安作りの4つのステップで話し合いを進めました。

危険予知能力の向上が、危険情報システムの構築に役立ち、具体的なマップの作成や更新に役立つことが期待されます。

# 平成17年度 市川市教育功労者表彰式

11月16日(水)、市川市の教育に貢献された方々の功績を讃える教育功労者表彰式が行われました。

本年度は、3名の方が受賞され、来賓の祝辞、表彰状の授与が行われました。

- 藤田 憲三 (市川市立鬼高小学校 学校医)
  - 本田 利男 (市川市立宮久保小学校 学校歯科医)
  - 小久保 正雄 (市川市立宮久保小学校 学校薬剤師)
- (敬称略)



市川市教育功労者の皆様と千葉市長、井上市議会議長、五十嵐教育委員長、吉岡教育委員、緑谷教育委員、西垣教育長、東田小中養護学校校長会連絡協議会会長

## コミュニティクラブ事業

### 力を合わせてゴールイン 五中ブロック

暖かな陽射しがこぼれる11月20日(日)、朝から柏井小学校、大柏小学校、大町小学校に集まった親子や子どもたちのチームおよそ50組が、大町少年自然の家ふれあい広場を目指して歩き始めました。



途中、道に迷いながらもみんなで力を合わせて最後まで頑張りました。

ゴールの広場には、ボランティア(第五中学校生徒や職員も参加)が作った温かい豚汁とフランクフルトが用意されました。早く到着したチームから口いっぱいほお張りながら歓談し、話に花が咲いていました。

### 子どもから大人までみんな感動 南行徳中ブロック

今年で9回目を迎える三世代フェスティバル(南行徳中ブロックコミュニティクラブ)が10月23日(日)行徳文化ホールI & Iで盛大に開催されました。

本事業は、幼児からお年寄りまでの幅広い世代の地域の団体・サークル等の発表の場を作り、世代間のコミュニケーションをさらに深めていくことを目的に始めました。



当日はマーチングから始まり、劇や朗読、合唱、和太鼓、ダンス、弾き語り、よさこいなど様々な発表があり、一生懸命に発表している姿に万雷の拍手が寄せられました。

「三世代フェスティバル」の名の通り、幅広い年代の方々が一つとなり、とても感動的な活動となりました。

# 確かな学力

## 総合的な学習を核に「伝え合う力」を育む 宮久保小



宮久保小学校では、子どもたちの課題を追究しようとする意欲や態度を、国語の「伝え合う力」と関連させながら育てようとしています。

10月28日(金)の研究授業「めざせ食の達人」では、6年生が食に関して調べたことを発表しました。

外国の食に関することでは、新しい言葉との出会いや、新たな疑問が生まれる学習となりました。

自然を見つめ直す生活科・理科学習

中山小学校は、生活科・理科学習を通して、「科学的に見つける力」「調べる力」「記録する力」「まとめる力」の向上に努めています。

10月26日(水)に行われた公開授業研究会(学習指導研修会)では、本年度の3つの重点導入の工夫、実験・観察を基にした話し合いの充実、ノート・記録の活用についてを意識して各学年で学習を展開しました。



## より効果的な指導や支援はどうあるべきか 南行徳中



木材加工の学習 (技術家庭科)

南行徳中学校では、昨年度から全教科で、講師を招いての教師全員による授業研究会を行っています。

10月20日(木)には、「基礎基本を身につけさせるために、より効果的な指導や支援はどうあるべきか」をテーマに授業研究会を行いました。基礎基本の定着、学習意欲の向上、学習評価のあり方など、各教科での検討課題をテーマにした学習が展開されました。

## 心と体のバランスのとれた児童の育成 北方小

北方小学校では、「生きる力を育む健康教育」に取り組んでいます。

12月12日(月)の自主公開授業研究会では食に関する指導として、「おやつを見直そう」が行われ、5年生が食品(おやつ)に含まれる塩分、糖分、脂肪分について実験で確かめました。子どもたちは、市販の紅茶の甘さに近づくように砂糖を加えたり、食品表示を基に塩分の量を調べたりする活動に取り組みました。



## 個別指導計画を生かして 養護学校

養護学校では子どもの全体像のとらえ方を学び、指導実践に役立てる研究に取り組んでいます。

11月30日(水)の公開授業研究会では、「ひらがなのマッチング」の学習が行われました。



この学習では、先生が出した絵をヒントに、子どもがひらがなを探し、50音を完成させていきます。そして、その活動を通して、子どものコミュニケーションの幅を広げていきます。

先生と子どもが、心をつなげて取り組む姿が見られました。

活力ある心豊かな子どもの育成 福栄小

福栄小学校では、国語科と算数科で授業の研究を進めています。

12月6日(火)に行われた公開授業研究会では、低学年と高学年で、確かな学力を目指した授業研究が行われました。

国語科では「伝え合う心」の育成のために「話す・聞く」活動を重視した授業が、算数科では自分の考え方と友だちの考え方を整理して活用する力(多様なものの見方)を身につけさせる授業が、それぞれ展開されました。



# 豊かな心を育む 授業研究会盛んに行われる

10月から12月にかけて、市内各小・中・養護学校で授業研究会が行われました。授業研究会は、教師の資質向上のために、多数の人に公開するものです。授業の後で行われる検討会では、子どもたちの学びに関するテーマについて、授業における教師の技術についての話し合いが行われ、普段の授業よりも多くのことを学びます。そして、それを積み重ねることで、授業の改善が進みます。

市川市では、近隣校で行う公開、学力向上をテーマにした公開、全国公開などを始め、様々な形で授業研究会が行われました。その一部を紹介します。

## 豊かな心と主体的な学びを育てる読書教育のあり方 富貴島小



富貴島小学校では、本好きの子ども、生活の中に本のある子どもを育てながら、子どもたちの伝え合う力を伸ばすと同時に、「読む・書く」「聞く・話す」という国語科の基礎・基本の育成に力を入れ、学力の向上を図っています。

11月30日(水)の公開授業研究会では、読み取り、語り、感想文や読書の交流会、収集した事柄を自分の文にまとめるといった国語科の様々な学習活動が展開されました。

全体会では、東京学芸大学教授の大熊徹先生から、市川市の読書活動に関する取り組みが先進的であることや、読

書によって「思考、認識の力が育つ」と同時に、「文章もうまくなる」というお話(中国に伝わる文章上達の三要素)をうかがいました。

伝え合おう！ぼくらの学びを！ 大野小

大野小学校では、研究授業を保護者にも公開しています。今年度は、生活科、総合的な学習の時間と、国語科との有効的な関連を追究しました。

11月26日(土)の自主公開授業研究会では、「伝え合おう！ぼくらの学びを！」をテーマに全学級で、国語科で培った「表現する力」「コミュニケーション力」の実践の場として、生活科と総合的な学習の時間の授業展開が行われました。

また、千葉大学教授の寺井正憲先生による子供たちと保護者が共に学べる講演会、「よりよいコミュニケーションを行うために」では、「コミュニケーションは相手とのキャッチボールである。」などのお話に、参加者は熱心に聞き入っていました。



寺井先生による講演

## 3校合同落語交流会開催 宮田小・大洲小・大洲中



144号で紹介した「落語交流会」(図書館資源共有研究協力校)が大洲小を会場に、11月18日(金)に開催されました。

小学校2校は、代表の子どもたちによる落語の発表、中学校は落語に関する調べ学習の発表でした。教室は、4年生の落語の熱演に、笑いでいっぱいになりました。

中学生の落語の歴史、落語の世界についての発表も興味深い内容でした。プロの落語家による講評と落語も楽しく、言葉の面白さ、表現の豊かさを学ぶ時間になりました。

## 豊かな心と実践力を育む体験重視の道徳教育を目指して 第八中

第八中学校では、「道徳・総合的な学習・特別活動のセット化を通して」を副題に、11月10日(木)に自主公開授業研究会を開きました。セット化とは、道徳の時間で道徳の実践力を高め、学級活動の話し合い活動で体験活動への意欲化を図り、総合的な学習の時間に実体験をするというものです。

この日も、学年ごとに決められたテーマを基に、各学級で道徳・特別活動の授業が展開されました。



## あたたかな心と豊かな人間関係を育む道徳・特別活動 真間小



指導の工夫の提案(特別活動研究部会)

12月2日(金)真間小学校を会場に、全国道徳・特別活動研究大会が、全国21都県から256名の参加者を集めて開催されました。「あたたかな心と豊かな人間関係をはぐくむ道徳・特別活動」をテーマに、市内の教師による学習展開、全体提案、研究部会、講演がありました。

講演では、文部科学省教科調査官の先生方から、「人間は折り合いをつけていかないと生きていけないから、特別活動を通して学ばせていく。」「子どもたちの心の力を強くする道徳の時間が重要。」とのお話をうかがいました。

## 国語科・算数科一人一人が輝く学習を求めて 八幡小

八幡小学校では、読書の日常化、基礎基本の充実を図った上で、子どもの思いや願いを基にした豊かな自己表現について研究しています。

国語科・算数科を通して「自分の考えをしっかりと持って表現する力」の育成に重点をおき、「わかる」「楽しい」学習の展開を目指したものです。

10月26日(水)の自主公開授業研究会では、全学級で授業展開が行われました。午後の分科会では、それぞれの教科における「豊かな自己表現」について熱心な話し合いが行われました。



分科会での話し合い

## 大人が少年に伝える愛の一声 一日少年補導員体験

11月12日(土)「一日少年補導員体験」を開催しました。今年、青少年健全育成団体からの参加者に加え、「広報いちかわ」の公募に応えた一般市民の方も参加しました。

参加者は、少年を取り巻く状況についての講義の後、7つのグループに別れ、本八幡駅周辺のゲームセンター等で、少年補導の実際を体験しました。「少年補導」という言葉を聞くと、取り締まりや罰を想像するかもしれませんが、そうではありません。街頭で心の居場所を探している少年に、「大切なあなたに私は気づいていますよ」と愛の一声をかけることが補導なのです。

このような活動を実際に体験していただき、身近な少年との日頃の交流に役立てていただくことが、この体験の目的です。体験後、参加した皆さんから「少年が出入りする盛り場の実態に驚いた。」「少年補導の地道な取り組みに感心した。」等の感想をいただきました。来年も開催しますので、是非ご参加ください。



# 健康や安全への理解や関心を深めるために 第32回児童・生徒保健研究発表会

12月1日(木)に生涯学習センター、グリーンスタジオで「第32回児童・生徒保健研究発表会」が開催されました。



大柏小学校の発表

この発表会は、子どもたちが健康や安全に関する理解や関心を深め、より健康で安全な生活を実践できる能力を身につけるとともに自主的な保健活動の推進を図るために毎年行われています。

今年は、小学校4校・中学校1校が各学校のテーマに基づき発表しました。各学校の発表は下記の通りです。

- 塩焼小学校 「生活習慣をみなおそう」
- 菅野小学校 「われら菅野小健康委員会 ハッとしてドキッとしたことをみんなに伝えよう」
- 大洲小学校 「手洗い名人になろう」
- 大柏小学校 「朝ごはんを食べよう」
- 下貝塚中学校 「生活習慣病とその予防について知ろう」

大柏小学校の発表は、カゴメ「食の冒険グランプリ」グループ学習部門でグランプリを受賞した作品でした。各学校の各委員会の子どもたちが、生活習慣病や手洗いの大切さを日常の体験を基にした研究成果として発表しましたが、どの学校も素晴らしい発表でした。

子どもたち自らが生涯の健康づくりに取り組んでいる姿が、来年も発表されることを期待します。



平成17年度の合同学習発表会が11月19日(土)に市川市民会館大ホールで開催されました。

市内小・中学校の知的障害児学級や市立養護学校の児童生徒の表現力を豊かに育てることと、障害児教育への理解と啓発を推し進めることを目的に毎年開催され、今年で40回目を迎えました。

当日は、たくさんの来賓、保護者、教職員そして友達が見守る中、劇や音楽劇、音楽発表等があり、全部で18校の子どもたちが日頃の学習の成果を発表することができました。劇では思い思いの衣装をまとい、大きな声でせりふを言ったり、ダンスをしたりで、友達との息もぴったりで、のびのびと演技ができました。また、音楽発表会では指揮者のタクトを見ながら一生懸命に一人一人が気持ちを込めて、演奏していました。

毎年、この発表会で自信をつけて、その後の学習や生活に生き生きと取り組む子どもたちが増えています。

今年も、実りの多い学習発表会が実施できました。

平成17年度合同学習発表会

## 大盛況! 近年最高の入場者数9,299人 こども作品展

11月17日(木)から20日(日)まで、市川文化会館展示室・大会議室において、「平成17年度市川市こども作品展・新聞展」が開催され、昨年度の入場者数7,378人を大きく上回る9,299人の入場者がありました。

市内の幼稚園、小学校、中学校、養護学校から出品された作品は、子どもたちの夢や願いがこもった力作ばかりで、多くの方々に楽しんでいただくことができました。

感想をいただきましたのでご紹介いたします。

すごかった。またみたい。おもしろい。(幼稚園児)

個性があっていいなと感じました。今までは自分の作品しか見ることができなかったけど、今日は色々な人たちの作品や中学生の作品をみることで「いいな」と思いました。いいところをまねしたいと思います。(小学生)

たくさんの作品があって勉強になりました。みんな素晴らしい作品で一つ一つが元気な作品が多かったです。(中学生)

大人の方からは、

1年生の可愛らしさから、高学年、中学校の力強さ・繊細さに感心しました。また、学年によらず想像力、創造力などは「自分の幼少の頃にあったか」と考えると素晴らしいと思います。

私の子どもの頃に作っていたものに比べ、素材が豊かであり、色づかい、アイデアも盛りだくさんで楽しく見ることができました。



子どもたちが一生懸命に作っている姿が目につきました。素敵な空想、色づかい、工夫など「日本もまだまだ元気だ」と感じました。

来年度も、子どもたちの夢にあふれた素晴らしい作品を、数多く展示したいと思います。

## お知らせ

### ほっとホッと訪問相談

#### お電話 お待ちしています!

不登校などに関して豊かな知識と十分な教職経験のある3名の相談員が、相談者の立場になって、温かな雰囲気の中で相談活動を行っております。

小学校や中学校に通うお子さんの様子に困っていたり、ご自分の気持ちが整理できなかつたり、どうしてこのような状況になってしまったのかを悩んでいらっしゃる方は、ぜひお電話してください。

相談員がご家庭などに訪問したり、ご都合のよい場所でお話を伺ったりします。なお、ご相談された内容についての秘密は守ります。

お申し込みは、**市川市教育委員会指導課 047-334-1642**

指導課の担当者が相談員に連絡し、その後、相談員からご連絡をさしあげます。

みなさま、お気軽にご相談ください。

### 自然博物館・散策会

#### 市内の自然豊かな場所を気軽に散策します

- 日時: 2月19日(日)午前
- 集合場所: 自然博物館にお問い合わせください。
- 内容: テーマ「江戸川の冬」
- 申込: 不要ですが、事前に自然博物館までお問い合わせください。天候不良の場合は中止です。

市川市自然博物館 TEL 339-0477